

(1) 必要な材料 :

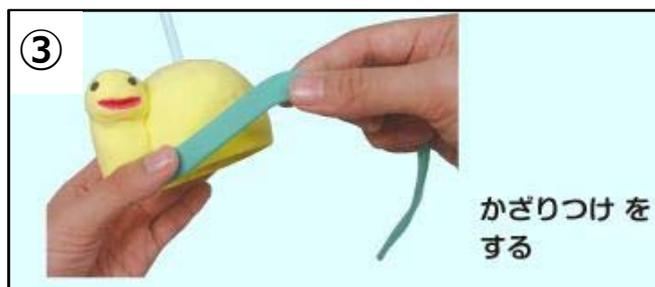


・白い粘土に絵の具を混ぜても作れます



・粘土が完全に乾いてから塗ります (だいたい2~7日後)

(2) 粘土工作 :



粘土が乾くの2~7日かかります
工作の時間ではできないので、家で塗ってください。
ニスを塗ると丈夫でとてもきれいになります。



(3) ふうりんの組み立て :



完成!!

【資料引用サイト】 ◎ 下記のサイトから一部の図面を借用しています。ありがとうございました。

- ・<http://www.ntv.co.jp/megaten/library/date/12/06/0609.html>
- ・<http://ameblo.jp/thinkmacgyver/entry-11295335050.html>
- ・<http://selsyne.cocolog-nifty.com/blog/2013/07/post-1e0f.html>
- ・<http://item.rakuten.co.jp/crafteriaux/77-004/>

《サイエンス・キーワード》

ふうりん (風鈴) 粘土 (ねんど) 錯覚 温度 サーモグラフィ 表面温度 リラックス

【ふうりんの効果 1】 2012年7月6日 日本テレビ『所さんの目がテン!』で放送

《実験の方法》

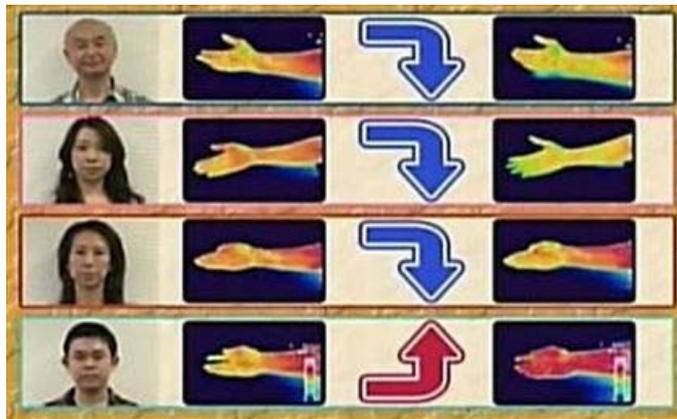
- ・27℃の部屋で実験。被験者に室温は教えない。
- ・被験者に部屋に入ってもらい、室温（体感温度）を聞く。
- ・そのあとで10分間ふうりんの音を聞いてもらう。
- ・「室温を変えましたが、何度に感じますか？」と聞く。
- ・サーモグラフィで手の表面の温度を測る。



結果1：ふうりんの音で
室温が下がったように感じる



結果2：サーモグラフィで測ると
手の温度が下がっている（3/4人）

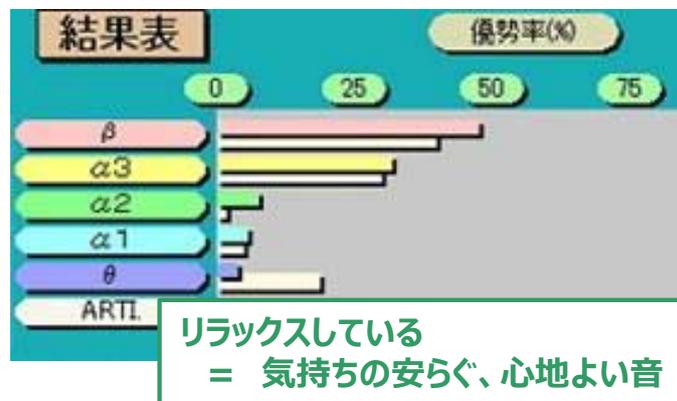


【ふうりんの効果 2】 2013年7月12日 フジテレビ『とくダネ!』で放送

《実験の方法》

- ・被験者の脳波を測定する。
- ・そのあとでしばらく風鈴の音を聞いてもらう。
- ・もう一度脳波を測定し、前の結果と比べる。

結果3：ふうりんの音でα波やβ波が増え、
リラックスしていることが判る



【ふうりんで涼しくなる理由】

↓ むずかしくいうとこうなる

『脳自体は思い込みだとか条件付けによって、末梢の活動も変えていきます。風鈴の音を聞いただけで、脳が涼しげな光景を思い出し、それが末梢神経に命令を与え、実際に体表面温度に（変化が）起こってくるということです。』

（諏訪東京理科大学脳科学専門・篠原菊紀教授）

↓ やさしくいうとこんな感じ
(脳が錯覚をおこしている)

ふうりんの音が聞こえる
→ 風がふいているらしい
→ 風ですずしいはずだ
→ からだの温度を下げよう

良い方に解釈する
= 気持ちの良い音だから